

支援だより

第3号



県立金沢支援学校 連携支援グループ 地域支援チーム 令和7年12月



今回の支援だよりは、並木第一小学校での出前授業について、分教室の活動について、PTのつぶやきの3本立てです。

並木第一小学校での出前授業



例年、並木第一小学校4年生が金沢支援学校に来校し、小学部A部門とB部門4年生の児童と交流しています(今年度は10月7日実施)。その事前授業として9月24日(水)、金沢支援学校職員2名が並一小へ行き、4年生に出前授業を行いました。前半は「金沢支援学校ってどんなところ?」、後半は「どんな友達がいるのかな?」ということを中心に授業を進めていきました。

前半のはじめに、金沢支援学校の正門やバスの写真を見せると、「バスケで行ったことがある!」「毎日前を通っています。」「黄色バス見たことがあるよ。」と元気いっぱいに様々な反応をしてくれた並一小の子どもたち。その後、支援学校の授業、教室、時間割等について話を進めていきました。「学校は違うけれど、みんなそれぞれに合った方法で学習している。」ことに気づいてくれたように思います。

後半は、みんなの好きなことを教えてもらうことから始めました。たくさんの手が挙がり、自分の好きなことを積極的に発表してくれました。苦手なことも聞いてみると、こちらもたくさん手が挙がり、少しばかみながらも答えてくれる姿が微笑ましかったです。その後、苦手なことはどうしたら解決するか等について話を進め、「誰にでも好きなことや苦手なことがある。同じところや違うところを知ることが大切!」ということを確認することができました。



分教室の活動

皆さん、知っているようで知らない分教室。どこにあるのか、またどんな活動をしているのか、今回は、横浜氷取沢分教室で行っている学習活動について一部分ではありますが紹介したいと思います。

分教室は、県立横浜氷取沢高校内で3つの教室と多目的室を使って学習活動を行っています。コロナ禍では各学年で行う活動が主でしたが、2年前から職業の授業を3つの班に分けて、縦割り活動を行っています。先輩の作業準備や取り組む姿勢・日直を進行している姿等々を見て、後輩が見習って授業に取り組んでいます。

また、例年横浜氷取沢高校学校祭（氷焱祭）に各学年で出し物を考えて参加しています。今年度は、3学年合同で「おばけやしきとフォトスポット」作りに取り組みました。生徒同士で作り方を工夫したり、結団式で3学年全員の心を1つにまとめたりと協力して作りあげました。当日は、お客様の誘導や受付、お化け役と各自の仕事を担当し、無事60組のお客様をお迎えして大盛況に終えることができました。



PTのつぶやき



今回は DCD（発達性協調性運動障害）についてお話ししたいと思います。

【DCD（発達性協調運動障害）とは？】

DCD は脳の「協調」機能に障害があることで、運動や動作がぎこちなくなり、日常生活に支障をきたす発達障害の一つです。「協調」とは、視知覚・触覚・固有覚などの感覚情報を統合し、それに基づき運動を企画・計画し、身体を適切に動かす脳の機能のことです。DCD の子どもは約5%、つまり20人に1人の割合で存在するといわれています。

【DCDへの介入方法】

DCDへの支援には大きく分けて2つのアプローチがあります。

① 課題指向型アプローチ

本人が「できるようになりたい」と望む課題を設定し、その達成に向けて支援する方法です。本人の意欲を尊重しながら、実生活に即した課題に取り組むことで成功体験を積み重ねていきます。

② 身体機能指向型アプローチ

DCD の根本的な原因である脳と身体の連携を助けるために、体幹や上肢の安定性を高めるなど、身体機能に直接働きかける方法です。

どちらのアプローチでも「体を動かすのは楽しい」と感じられるような活動を通じて、小さな成功体験を積み重ねることが重要です。トップダウン（課題からのアプローチ）とボトムアップ（身体機能からのアプローチ）を組み合わせることで、より効果的な支援が可能になります。

